

2021年3月1日

公益財団法人味の素の文化センター

2021年度事業計画書

I. 2021年度事業方針

世代を超えた食文化研究の永続的な発展と、食文化の普及啓発へのさらなる貢献を目指す。食文化研究者の発掘・育成と研究・交流の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2021年度事業計画

1. 食の文化フォーラム

- ① 食の文化フォーラムが40周年を迎える2022年に向け、2019年度からの3か年を「フォーラム40周年記念」として、食文化研究全体を俯瞰するテーマで開催し、過去20年の集大成とする。2020年度より年次出版している3巻の書籍(シリーズ本)としてその成果を刊行する。
- ② 2021年度年間テーマ「食の展望—持続可能な食を目指して」
コーディネーター:南直人氏(立命館大学)、総合司会:中嶋康博氏(東京大学)
第1回セッション「食に映し出される現代の生活」(2021/6/12)
第2回セッション「多様化する食と社会」(2021/9/25)
第3回セッション「現代世界の中の食の課題と未来」(2022/3/5)
- ③ 2021年度出版 『食の現代社会論—科学と人間の狭間から』(2020年度フォーラム成果)
- ④ フォーラム40周年以降を見据え次世代の育成を継続して推進する。

2. 食の文化シンポジウム・公開講座

- ① 食の文化シンポジウム(時期未定:2021年上期予定)
出版するフォーラム書籍をベースに幅広く研究者・学生も交えて議論する。
- ② 共催シンポジウム(時期未定:2021年10月~12月)
人間文化研究機構と共催のシンポジウムを開催、Web配信も通じ広く発信する。
- ③ 公開講座
食の文化研究助成等との連動を検討し、Web配信も活用して新たな企画を実施する。

3. 食の文化研究助成

- ① 助成研究の着実な実施と認知度向上を通じて、食文化研究の更なる裾野の拡大を図る。
- ② 既研究助成者の相互交流・発表機会を創出し、食文化研究者の増加・研究の広がりを推進する。

4. 食の文化ライブラリー

- ① 公開図書館・公開展示
利用者の利便性向上も含めた館内環境の改善を含め、将来的なライブラリーのあり方を検討し、ライブラリー高輪移転20周年(2024年)に向け長期的視点でのリニューアルプランを検討する。
- ② 所蔵資産の活用
所蔵する貴重書(明治~昭和前半の書籍)約3,000冊(2022年2月スキャン完了)のデジタルデータを閲覧できるシステムをライブラリー内に構築する(2022年3月末に稼働開始予定)。

5. 食の文化誌『vesta』

① デジタル版販売推進

SNSと連動し、デジタル版(Kindle等)の更なる普及を通じて新規読者層の開拓を推進する。

② 2021年度『vesta』出版

122号特集「世界の台所(仮)」石毛直道氏(国立民族学博物館名誉教授) (2021/4)

123号特集「アフターコロナの食文化(仮)」岩田三代氏(元日本経済新聞) (2021/7)

124号特集「食の装い(仮)」アドバイザー検討中 (2021/10)

125号特集 検討中(2022/1)

③ 新規執筆者の積極的な開拓(新規12人/年以上)を通じ、食文化への関心の拡がりをねらう。

6. 食の文化ウェブ

① ホームページ

所蔵資料を活用した動画コンテンツの制作・掲載、出版・シンポジウムなどの財団活動と連動したコンテンツの掲載を通じ、広く食文化への関心喚起を図る。

② SNS等

メールマガジン会員向けサイト、Facebook、Instagramでの継続的な発信を通じ、食文化への関心喚起、および財団活動への理解の向上とファン化の促進を図る。

以上